

「3」の教え

あきしま 昭島市長(東京都) 北川穰一
Joichi Kitagawa

3つの宝

私は、商家に生まれ育ちました。学生時代は、野球や陸上などスポーツ競技に夢中になっていました。練習や試合を通じて、多くの友人を持つことができ、また、体を強くすることができたと思います。スポーツ競技は、一人でやるものではなく、必ずチームメイトやライバルがいます。仲間との協調、あるいは相手との競争によって、勉強以外の大変貴重な多くのことを学ぶことができ、学生時代のこうした経験が今の私の第一の基礎となったと思っています。

スポーツの素晴らしさは、「練習や試合を通じての技術・体力の向上」「勝つことのうれしさ」にあることは誰もが認めることです。しかし、同時に、否、それ以上に素晴らしい要素がスポーツには含まれていると思います。

これは、今上陛下の家庭教師であった小泉信三博士が云われたことでありますが、スポーツは「3つの宝」を与えてくれます。即ち、「練習の体験」「フェアプレイの精神」、そして「友」という宝

です。練習を積み重ねることによって不可能であったことが可能となり、先生や先輩とのかかわりや真剣勝負を通じて正しく、潔い、礼節の心が養われ、そして、チームメイトやライバルとの間に真の友情が芽生えます。この「3つの宝」は、現在の日本社会にまさしく必要なこと、そのものではないかと思えます。

三方よし

学校を出た後、家業である卸小売業に就きました。休みの日はほとんどなく、重い荷物を運び、夜遅くまで配達することが毎日のようにありました。正直、辛いこともたくさんありました。それがお客さまに対する当然の仕事と思っていました。おかげさまで、お得意さまと懇意になることができ、お互いの信頼関係が生まれ、そのことを通じて、また、多くの方々を知り合い、話をすることができました。

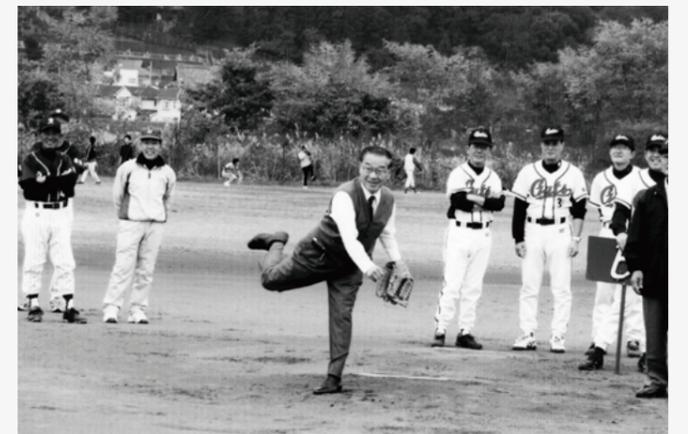
その後、市議会議員を経て、市長に就任させていただき、市民の皆さまや職員と一緒にまちづくりを進めているわけですが、議員としても、市長として

い場所となることを望んでいます。そのためには、住民一人ひとりが自分のことばかりを考えるのではなく、「世間によいこと」を常に心掛けながら活動していかなければなりません。こうしたことから、行政を進めていく上では、普段の生活から人を大切にすることを養うことが大切であると思っています。朝起きて家族とあいさつを交わすように、人としての温かさや相手を思う心が、自然と仕事をする姿勢に現れてくると信じています。これが私の2つめの基礎です。

プラスの3K

毎日、なるべく歩いて出勤することを心掛けています。約1時間、昭島の街並みを見ながら歩いた後、市長室の椅子に座ります。朝早いいため、職場に職員もほとんどいません。静寂の中、気持ちに無にして、横に書かれた3つの言葉を読みます。「希望」「工夫」「工追」。毎朝、公務をこうして始めることにしています。

誰しも、仕事や家事において大きな課題に立ち向かったり、重い決断をし



始球式でも全力投球

ても、市民の皆さまに市政について説明をしたり、協力を求めたりするに当たって、家業に励んでいたときの経験と心構えが大いに役立っています。それは、お互いが信頼し合える人間関係を作ることが一番大切であるということです。

私の父は、滋賀(近江)から昭島へ来て商売を始めました。近江商人には、「三方よし」という考え方があります。

どんな状況にあってもなくしてはならない「希望」。苦しみや難題を解決するための「工夫」。そして、挫折や限界を乗り越えるための「気迫」。

東日本大震災以来、私たちの国は、かつて経験したことのない大変厳しい状況の中にあります。今こそ、この「プラスの3K」を心に据え、世のため、人のために働きながら、新たな国づくりにチャレンジしていかなければならないと思う毎日です。



筆者(北川穰一市長)



ウォーキングで街並み観察

「売り手」「買い手」に「世間」を合わせて三方と言います。商売をしていくには、自分自身「売り手」に「世間」を合わせていかなければならないという考えです。誰もが、自分が住み、生活する地域が活性化し、安全で安心な居心地のい